



北海道 東川町「旭岳」

電気のふるさと

電源地域ニュース

C O N T E N T S

Key Person



経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部
原子力立地・核燃料サイクル産業課
原子力発電立地対策・広報室長
鈴木 洋一郎

● Key Person..... 2

経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課
原子力発電立地対策・広報室長
鈴木 洋一郎

● 特集 電源地域のサクセスストーリー..... 4

美しい風景と人の交流でまちおこし
生き生き輝く未来をとらえた「写真の町」
北海道 東川町

● いきいき 電源地域..... 10

地域振興に取り組んでいる電源地域の元気な姿を紹介します
愛媛県 伊方町
福井県 おおい町

● センター掲示板..... 11

電気のふるさと 産品自慢

富有柿ジャム 岐阜県 本巣市
紫黒米あれこれ 兵庫県 たつの市

- 「電気のふるさとじまん市」がネットモールに出店します！..... 12
- あなたの地域の担い手づくり最近の研修事業から..... 13
- 「エネルギープラザ2006 in 玄海町」開催のお知らせ..... 14
- (財)電源地域振興センターの組織が変わりました..... 14
- 読者プレゼント..... 15
- 人事往来..... 15
- 編集後記..... 15

電源地域探訪 ～表紙のことば～

東川町の背景にどっしりと横たわる大雪山連峰。その主峰「旭岳」には手つかずの自然が広がり、温泉観光客やカメラマン、スキーファン、登山者たちの羨望の的となっています。一方、視線を近くに移すと、そこには美しい田園やまっすぐに伸びた道など、北海道らしいのびやかな風景が広がっており、さらに街の中には景観に配慮した住宅や木彫看板、そして人々の笑顔が溢れ、山の魅力に勝るとも劣らない生活資源がそこにはあります。

大雪山と忠別川の恵みに抱かれた東川町で生産される農産物はまさに自然と住む人々の「共同作品」であり、今後も多くの人々を魅了することでしょう。

表紙：新忠別発電所（北海道電力、水力：国の重要電源開発地点指定）最大出力：1万kW

営業運転開始（予定）：平成18年10月

昨今、地域振興をめぐる地方や地方自治体を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。従来の地域振興策の多くは、自治体が国の施策メニューを選びその通り実行することによって補助金の受け皿になり、これを地域に配分するというものでした。域内での箇所付けが地域をグリップする源泉になってきました。国の施策を下請け的に実施してきた結果、この地方に行っても総じて金太郎飴のような内容で、地域毎の特色や工夫の余地は残念ながら余り見られませんでした。ここ数年、三位一体の改革が進み、地域振興策の多くは国が自治体を通り越して直接事業者を対象とするようになり、内容も従来のメニュー提示型から地方の発意と工夫に基づくモデル重視型となりました。自治体を経由しないことにより、従来の自治体による配分機能は消失しました。今では地方が自らの頭と手で考え積極的に国に提案することでお仕着せでない地域の実情に即した地域振興を実現することが可能となつてきています。勿論、従来も建前はそうでした。が、カネとアイデアで地方の自由度が増し、地域間競争が激しくなっています。構造改革特区制度の導入もこれを後押ししまし

た。市町村合併が進み、優勝劣敗が明確になってきたことも背景にあります。実際、多くの自治体では三位一体改革で移譲された自主財源や特区制度を有効に活用しようと知恵を絞っています。私の前職は地方の県庁勤務でしたが、地域振興の難しさは肌身に染みんでいます。激化する国際競争と企業のコスト意識の高まりで企業誘致は思うように進まず、むしろ企業流出を阻止するのに必死です。内発型の産業振興を目指して起業・業務拡大を支援しても、研究開発段階で資金繰りに詰まってしまう、補助金が切れるとその後が続かない、地場産品を開発しても販路が無い、と途中で頓挫することしきりです。そんな中、いくつかの成功例もありました。例えば野菜の産直ですが、生産者や生産履歴を明示する、販売情報をリアルタイムで生産者に伝達し商品補充を直ちに行う、豊富な品揃えと広い駐車場を設ける、都市部にサテライト的に店舗を設ける、といった工夫で売上げを伸ばしたものが、町並みの良さを見てもらう観光イベントで、パビリオンなどハード施設は無いものの、複数の町が競い、半年もの長期間を設定し、多くの地元住民が主体となって町全

体をイベント会場とするような様々な体験型プログラムを演出したものが、これは多くの観光客を集めイベント関係の全国的な賞も頂きました。成功例のポイントは、
①顧客ニーズを的確にとらえていること
②事業に携わる関係者が十分な動機付けをもち関係者が価値を認める見返りがあること
③地域の利点や資源を分析し活用すること
④核となる人物がいること
などが挙げられます。いずれも言い尽くされている点ですが、どうかこれらの点も参考にしながら皆さんの地域それぞれで工夫をこらし、持続可能な地域振興に取組んで頂ければと思います。国は多くの交付金制度や地域振興策をもっていますので、これらも有効にご活用頂きたいと思えます。電源地域をめぐる現状は様々です。「他がこうして成功したから」「○○で評判が良いから」ということでは無く、過疎や来るべき少子高齢化を見据え、住民が真に求めることを実現して頂きたいと思えます。そのため御支援は惜しみませんし、御要望には出来る限りお応えしたいと考えています。